

○5番（山口良広君）〔登壇〕

おはようございます。ただいま、議長より登壇の許可を得ました、山口良広の一般質問を始めたいと思います。

昨日、私NHKのニュースを見ていましたら、最終プレゼンテーション——日本——東京に決まったオリンピックのことで、最終プレゼンテーションをやった佐藤真海さんですかね、テレビに出ていて、いろんなことを見たわけです。小学校、中学、高校と、チアリーダーをやりながら陸上をやりながら一生懸命頑張って、大学に行って、でも、こういうようなスポーツマンとして頑張っているときに、骨肉腫ちゅうことで足を切断せざるを得なかったということがあっていました。そしてその後もまた、絶望のどん底の中から陸上というのに出会い、また今の走り幅跳びですかね。そういうスポーツを、陸上をやっている頑張ったというものを最終プレゼンテーションの中で報告されたわけです。すばらしいもので、私も涙を流しながら見たわけです。このオリンピックによって、また日本が1つになって、頑張っていくことが成ると思います。我々武雄の議会も、いろいろ議論はあってもいいと思います。しかし、議事が決まった以上は1つになって、武雄市発展のために頑張っていくような議会になることを期待したいと思います。

では、ただいまより、私の一般質問を始めます。今回の一般質問で私は、九州新幹線西九州ルートの中線フル規格の実現について、市長の考えをお聞きしたいと思います。次に農業問題です。そして、杵藤クリーンセンター跡地対策について、質問させていただきます。

まず、九州新幹線西九州ルートの中線フル規格化の実現についてです。九州新幹線西九州ルートは、平成20年6月、武雄温泉駅、長崎区間のフル規格による整備と、肥前山口駅、武雄温泉駅間の複線化を一体化の事業として実現するという計画が認可されました。しかし、在来線の新鳥栖駅、武雄温泉駅の間には、93カ所の踏切の安全面や、大雨時の線路冠水被害による運休遅延問題に対して、明確な対策が示されておりません。交通体系の整備は、地域経済の浮揚と観光を中心とした交流人口の増加、定住促進、企業立地の拡大に大きく影響します。

そこで新幹線のメリットである安全性、高速性、定時制等の整備効果を最大限に発揮し、同時に踏切の安全確保や、線路冠水問題の解決のためにも、ない今、新鳥栖駅、武雄温泉駅間の中線フル規格での整備が必要だと思います。

そこで市長は今、九州新幹線西九州ルート中線フル規格化を、市長は表明する時期ではないかと思いますが、どう思われるかまずお尋ねしたいと思います。（「私が知事になったときにやります」と呼ぶ者あり）（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません。私知事じゃありませんので、私が表明しても、何ら影響は与えないとは思いますが、でも。もともとですね、私はいろんな場で、例えば上田議員さんの御質問のときでも、全線フル規格が望ましいということは、再三にわたって言っております。

今回ですね、やっぱりさまざまにいろんな話を伺うと、実は周辺自治体は、この在来線を活用した新幹線のスキームっていうのは強くやっぱ反対しているんですよ。沿線自治体は。例えば、踏切の問題であるとか。あるいは六角川の近くだと、地盤の問題であるとか。「何でつかあそこに新幹線ば走らすっですか」って。「これこそぞんかんせんじゃなかですか」っていう話も聞いております。

ですので、そういった意味からして、恐らくですね、これだんだんだんだん工事が進むにつれてどういうことが起きるかってというと、反対運動が起きますよ。反対運動が。ちょうど、新幹線の今のスキームが決まる前に、自治体の名称は申し上げません。江原議員がおっしゃったようには申しませんよ。申し上げませんけれども、物すごい反対があったじゃないですか。3年間延びたじゃないですか。少なくとも3年間。これが、もっと強い反対が、僕は巻き起こると思うんですね。ですので、そういった意味からしても、それともう一つ。やっぱね、オリンピックが決まったじゃないですか。これ、オリンピック新幹線にしましょうよ。（「そうそう」と呼ぶ者あり）だから、こういう在来線を使ったね、中途半端なスキームというのは、僕はだめだと思います。

で、もう一つ言えば、これね、武雄市民の皆さんたちも勘違いしているんですよ。新幹線が在来線を通るじゃないですか。今のフリーゲージで。「これ全部置きかわあとね」って言われるとですもんね。それで「私たち乗られんですもんね」って。そういう誤解もかなり、やっぱもう生じています。

ですので、今回ですね、まあ負担のスキームが変わることは前提です。今のままだったら、地元で2分の1の負担があります。これが変わることを前提に全線フル規格、高架。これが僕は効果的だと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひそういうことで、武雄市長を先頭にして……（笑い声）

〔市長「俺、知事じゃなかった」

このフル規格っちゅうものは、いろんな団体等も、どうなるかやちゅうふうな不安を持っています。ぜひ、そういうことでしたら、武雄、この西九州の発展には大事なことだと思います。そのために市長が言いましたのは財政負担スキームの問題もあるわけです。その問題が解決しない限りは、これを置き去りにしてやるということは不可能であると思えますけど、その点も含めて、ぜひ運動をやられることを期待したいと思います。我々もできる範囲内で

頑張りたいと思います。

では次に、新幹線を利用したちゅうことで、観光開発ちゅうものについてお尋ねしていきたいと思います。

今、温泉楼門が改修されています。その中で市長の演告でもありましたように、辰野金吾作の、東京駅には8つの干支が描かれ、残りの4つが武雄温泉楼門に描かれているとのこと。ロマンだと思います。ぜひ、武雄温泉楼門を活用した滞在型観光施設を考えるべきだと思います。今、武雄の温泉地は、大変宿泊の減少等で苦しんでおります。どうかしなくてはならないと思います。今、武雄は、そんな中で、今図書館や新病院などの効果により、武雄を訪ねる人、行政視察に来る人など、確実に増えております。それをどう宿泊につなげるかも大事な施策だと考えております。

その点、施策があればと、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

滞在型の観光を推進するってということで、施策と言ってもですね、簡単にはいきません。そういうことで、まず、いろんな観光事業所の皆さんとの連携は当然ですけれども、最近の観光は形態が変わっておりまして、以前の団体での物見遊山ではなくて、少人数の体験型が主流を占めてきております。例えば陶芸体験、あるいは農業体験、自然体験。

だから、そういう体験先の皆さんとの、今後連携が特に必要になってくるかと思っておりますので、そういう形で武雄への滞在時間を延ばしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、民間の力を活用して、ちゅうふうなことが出ました。そうだと思います。

以前、温泉を活用した官民共同のプロジェクトがあり、陶芸や農業者、健康管理や美容など、いろんなことを学ぶ場を考えるべきだと思います。きのうの市長の答弁の中でもあったように、図書館、温泉とゆっくりした時間の中で本を読み、いろんなものを学ぶ。そして温泉に入り、リフレッシュし、武雄はよかったっていうものがあっていいと思います。

ぜひ、こういうような形で、いろんな団体を使ったような、民間の力を活用するような施策というものを、以前あったような形の——まあ、また新しくいいですので、検討してもらいたいと思います。それに対して何かありませんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

とにかく、いろんな方との連携を深めながら、武雄の観光を盛り上げていきたいと思っておりますけれども、その中で一番大事なのが、武雄を訪れた皆さんが心地よい時間を過ごしてもらうために、特に武雄の市民の皆様一人一人がですね、おもてなしの気持ちで接していただく、これが一番だと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

私も、いろいろ、農業者として、いろんな視察を受け入れたり、いろんな研修をしたり、仲間と会うわけです。そんな中で、おもてなしの心。まずやっぱり、僕らは口だと思っています。やっぱり、自分の言葉でしゃべりながら、感謝して頑張りたいと思います。

次に、沿線のトロッコ列車ちゅうものを考えたわけです。

私は夏休みに孫を連れて、阿蘇のトロッコ列車に乗りに行きました。

我々農業人から、地元で——田舎におる者から見れば、何の変哲もないような阿蘇の山々の中に、田んぼを見たり山を見たり。まあ、そして阿蘇ですから、溪谷があつたり、すばらしい施設も、そして遠く阿蘇山とか、いろんなものが見えたわけです。

そんな中で、バスでいう車掌さんのごたんと——トロッコ列車に乗っておられまして、そんな人のユーモアあるようなお話を聞きながら、1時間ちょつとの旅でした。そういう話を聞いておりましたら、夏場とか——観光の期間に回っているちゅうなということです。「たくさんのお客が来て、いつも賑わっているよ」ちゅうなことを聞いたわけです。

これを、ある会議の中で話していたら、武雄から、佐世保線、大村線、長崎方面を通った西九州の新幹線の沿線の先に、このトロッコ列車のような物を走らせたなら、山があり、大村湾の海に浮かぶ小さな小島があつたり、ミカン山があつたり、有明海の干潟を見たり。そしていろんな——まあ、こう見るのが、トロッコ列車はすばらしい地域の連携につながると思っています。

今武雄は、嬉野、大村とか、諫早と、いろんなところと連携しながら新幹線を活用したプロジェクトちゅうものを考えられております。その中に、ぜひ、このトロッコ列車の活用ちゅうものも面白いんじゃないかなと思って、提案したいと思ひます。いかがなものでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

トロッコ列車ということですがけれども、通常、観光列車というのは、例えば、南九州あたりでは、鹿児島ルートを機に——数種類運行されていまして、ずいぶん人気を博しております。そしてまた、今年の秋からもですね、豪華列車「ななつ星」ですね、それも運行されて、

3月までのチケットがもう完売しているって状況で。観光列車自体はですね、ずいぶん人気があるかと認識をしております。

そういう中で、トロッコ列車ということですが、確かに、佐世保線——ダイヤ編成等もありますので、なかなかすぐにはですね、難しいかなというのはありますけれども、ちょっと沿線自治体と——も、また話し合ってますね、可能性というか、そういう1つのアイデアということで、また出してみたいと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

私は、ぜひ今、西九州ルートの駅でお互いにお客を呼び——取り合うんじゃなく、連帯して、そしてまた、それと同時に、長崎本線沿線の鹿島とか、太良とか、白石とか、その地域も一緒になって観光開発、地域開発を考える時期だと思っています。

新幹線が開通するまでは、まだ時間が十分あります。その間の中で、ぜひ西九州は一体だっちゅうことを、なるような施策っちゅうものも、まあ、このトロッコ列車じゃなくてもいいです。ぜひ検討されて、西九州は1つっちゅうことで頑張って、観光浮揚っちゅうものも大事な施策だと私は思っています。ぜひ、よろしくをお願いします。

それと同時に、武雄を考えますと、今、九州オルレっちゅうことで、武雄のオルレが頑張っております。そんな中で、私も以前三樹物語ということで、武雄の若木、武雄神社の大楠、塚崎の大楠と、回るようなイベント等に参加して、メンバーとして頑張っていたわけです。まあ、これらも含めて、武雄には山内の鍾乳洞とか、いろいろなものが、何ちゅうかな、あそこ、いろいろあります。それらを回るような観光ルートっちゅうものも、大事な武雄の観光資産だと思います。

まあその点、観光タクシーやら観光バスとか、いろいろと地域オリジナルの路線ちゅうものを考えられて、武雄のオルレで歩くことも大事でしょうけど、我々の年代になりますと、歩くより乗ってさあくとか楽しかちゅうような人種も出てきますので、ぜひそういう人たちの観光施策っちゅうものを考えていくべきだと思いますけど、いかがなものでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

確かに市内には、いろいろ観光スポットが点在しておりますので、そういうところを回っていただくという意味でも、今一番、力を入れているのが、まちなかを歩く「まちあるき」のほうに力を入れておりますので、まず、そちらのほうを優先的にですね、いろんな仕掛けを今後やっていきたいと考えてます。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

いろんなところには、いろんなものが、埋もれた施設っちゅうものがあります。それらを回るっちゅうもの。武雄に住んでいれば、こんなものが珍しいんかなっちゅうこともあるわけです。しかし、都会から来れば、斬新なるものになると思います。そういうものを見出し、回って、なるだけ武雄の温泉街に宿泊して1日でも2日でも武雄の温泉につかり、そして一今、夜の武雄は元気です。そこで、酒を飲みながら、地元の人と会話していろんなロマンを語る場に、武雄がなればいいなと思っております。

次に農業問題です。

政府自民党は2014年、農林水産関係予算の総額を2兆6,093億円出して、農業を何とかしよう、アベノミクスの中では輸出のできる農業をつくろうというふうなことで考えられております。TPPの問題も出ております。確かに今、1俵60キロ1万6,000円の米が、2割減ったら、2割払うたらどうなるんだろう。1万円になったら。いや、最終的には1俵60キロが3,000円になるよっちゅうような話までいろいろあるわけです。そういう厳しい農村の中です。

しかし、武雄の農業を守らなくちゃなりません。そして、食品、安心・安全の農産物を守るのも武雄市の農業振興だと思っています。それについてお尋ねしていきたいと思います。

この前、杵島普及所管内白石地区で、新規就農者の激励が上ったというものがありました。その中で武雄の新規就農者の数は、何人ばかりおられるのかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

新規就農者の数ですけれども、これは一番直近のデータで、昨年6月からことしの5月末までの間に新規就農された皆さんの数ですけれども、あわせて9名いらっしゃいます。うち、ただし5名は農業法人への就業ということで、実際——実質的な新規就農者は4名ということで、これはすべて施設野菜の皆さんです。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、9名おられて、法人以外の新規就農者は5名、その中の全員が施設園芸だと聞きました。今、施設園芸というところ——見ますと、私の住む地域も施設園芸。今度、補助金等をいただきまして、施設の高規格にあります、すばらしいハウスが建っております。10年以上、あわよくば20年近く屋根のビニールを貼りかえずに、台風風速50メートル、積雪20センチ耐えるようなしっかりしたハウスができております。幸いにも今、ちょうど夏場に建設が進

みまして、キュウリの販売が始まっております。ことしの異常気象の中で幸いにもこの地域は、佐賀地域は気象にも恵まれてまして、大豊作とまではいきませんが、豊作と高単価の中で、ああ、この施設の補助事業にかたって、ハウスを建ててよかったなあっちゅうことが、地域の皆さんから聞くわけです。それには多額なる投資、補助金が半分、あったとしても2,000万、3,000万の借金を背負いながらの農業振興です。しかし、農家の——やる気の農家っちゅうものは燃えてるわけです。

それにも、ぜひ、大事な農業振興っちゅうことで、成果を御披露したいと思います。

そんな中で、県内の農業を考えますと、今、アスパラガスの栽培、また、タマネギの栽培と、施設園芸では、高齢者を中心にして、一度植えれば、4、5年はできるというアスパラガスの栽培っちゅうものを、その裏には、土づくりが、本格的にやらなくてはならんっちゅうことで、1年くらいの準備期間もあるわけです。

そんな中で、アスパラガス、タマネギ栽培が県内では元気に行われ、また、当武雄市地区でも武雄中央地区を中心に、山間地を中心にアスパラガス等が伸びているわけです。

このアスパラガス、タマネギの、現況の進捗状況、どういうふうに振興策をやっておられるのか、現状をお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

まず、先ほど申し上げましたとおり、施設園芸の新規就農者が最近、増えておりまして、特にアスパラガス農家は増えております。

平成21年度、1戸だったのが、平成25年度、今年度までで、16戸へと大きく伸びております。来年度も2名の新規就農者が予定をされているという状況でございます。

対しまして、タマネギ農家につきましては、現状が97戸で、栽培面積が約50haということで、これについては、近年ずっと横ばいでありまして。

ただ、武雄の場合はですね、価格によっては、タマネギについては、作付けを減らしたいというような希望というか、そういう動きもあって、横ばいということになっております。

あと、振興策ってということですが、基本的には、JAさんや、県の普及センターによりまして、こまめに営農指導を行ってもらえ、市といたしましては、補助金事業の紹介とか、情報発信、そういう形で産地の強化、あるいは所得の向上に努めていきたいと考えてます。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

野菜の振興と言え、今、アスパラガス、タマネギ等が頑張っておられると聞きました。

また、タマネギの中で、ちょっと、寂しいような言葉の中で、価格の変動によっては、生産農家も減ったり、面積も減るよっちゅうような話もあったわけです。今までのように、価格が、もう毎年安定してとれる時代ではありません。2、3年、いいときがあれば、また何年か、1年か2年か、また不作が、価格安というものが、貿易との兼ね合いの中であるわけです。それを乗り越えるような、激励する心、ファイトを出すようなこと、そして、機械導入をして、もう後戻りされんごとして、ぜひ農家の——農業者を——タマネギなり、アスパラなりの振興を、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。

そんな中で、販売というものが、どうしても農協あたりに——中心になっていくわけです。そんな中で、今、武雄にはキュウリの集荷場は別として、山内なり、武雄の集荷場あたりで行われているわけです。以前は、野菜の育苗も武雄でやっておりました。それが、一つ一つ減って行って、心細くなっているのが現状です。

育苗センターをまた、もとに戻しなさいと言いませんけど、今、集荷場が武雄のほうに来ますと、今、何ちゅうかな、ゴーヤ。今、ゴーヤが出荷されておりました。そしてアスパラガス。また、まあいつときすれば柿の温泉美人ですかね、種なしのおいしい柿が出ます。またミカン等々、出ますわけですけど。

そんな中で、ハウスミカン等の、まあ、生産者も少ないわけですけど、鹿島まで、軽トラを夫婦で、2人で、思い思い乗せて行って、鹿島の集荷場まで、毎日持っていかなばらんよ、ちゅう話も聞くわけです。

これ以上、野菜等の集荷の場所が、武雄から遠ざからないように、運動するのも今からの武雄農業振興の大事なことでありますので、その点、どう振興されていくつもりなのかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

確かに集荷場、いろいろアスパラとかタマネギによって、いろいろな、今、集荷の方法等も違っておられます。そういう中で、JAさんのほうも、支所の再編成等、行っておられますけれども、とにかくこの集荷に対しましては、農家の方に、なるべく不利にならないようにですね、うちのほうからも要望していきたいと思ってます。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、今、この——農業問題では、集荷ちゅうものが、一番大事な毎日の出荷です。米、麦のように一時的な出荷とは違いますので、集荷場が近くにあるちゅうことは、大事なことです。その点——農業振興ちゅうものは、行政、農協、また県の普及所と一体とな

った振興っちゅうものが大事だと思いますので、連携を取りながら、元気な農家の育成に頑張ってもらいたいと思います。

次に担い手への農地の集積についてです。市内では、農業問題についての現状と今後、農業経営をどうするのかとのアンケートを農協と協力されて、実施されたと思いますが、その結果をお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

昨年度、平成 24 年度に、各町ごとに「人・農地プラン」というのを策定する、その検討段階におきまして、市内の農家 3,378 戸へですね、アンケートを実施いたしまして、約 60% の回答をいただきました。

結果ですけれども、市全体で見ますと、年齢の面では 60 歳以上の占める割合が 58%、あと、規模の拡大を考えてる人は、7%にとどまっております。また、後継者がいないという農家の方が 34%という結果で、農業者の高齢化とか、担い手不足っていうのが、数字として如実に表れているんじゃないかなと思ってます。

○議長（杉原豊喜君）

5 番山口良広議員

○5 番（山口良広君）〔登壇〕

今、規模拡大して行いたい人が 7%、そして、60 歳以上の占めるのが 58%と、農業をやっている人は、もう高齢者が主体となっております。

それでもいいと思いますけど、稲作等の水田作というものは、どうしてもだれかに頼みたい。そして、機械を持っている人はフルに機械を利用したい。そして所得増大に結びつけたい、それが今の現状ではないかと思っております。

だけど、その現状が、今、農地の集積状況がどうなっているのか、まず、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

農地の集積状況ということですが、担い手であります集落営農組織や、認定農業者の農地の集積につきましては、田が約 80%、畑が約 50%という状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

5 番山口良広議員

○5 番（山口良広君）〔登壇〕

今、農地の集積等が、ある程度進んでいるっちゅうな話を聞いたわけです。そんな中で、

今からどういうふうを集めるか。この水田だけでなく、ハウスと、また、一番問題になっているのは、もう、ミカン山はどうしても無理なんだと言ってるらしいけど、お茶園とか、いろんなものが、このまま放置されたら、どうにもならないっっちゃうような現状になると思います。そんな中で、ぜひ、担い手に集められ、またそして、担い手とその経営が安定するような施策というものが大事じゃないかと思っています。

そんな中で、百姓仕事で一番の問題は草刈り作業だと思います。昨日、4番議員のほうからもありましたように、農業者は、市道や県道ののり面、水路ののり面など、いろんなところの地域の——これが、これまで、払わんばらんかにゃーと思うどんが、やっぱり払わなければ、虫あたりのすみかになるっっちゃうことで、払っているのが現状だと思います。

僕の知り合いにも、川登とかで10町近くの水田を持っていますけど、いつも話すように、ここでも話しますけど、夏中は、もう草刈り機をごっといかろうとうです。そして、それでこそ、ようやく回っているような現状です。それは、もう、どこの農家でも一緒かもわかりません。大きくやっている人は、山間地では。こんな農家をどうにかしなくちゃならないっっちゃうものも考えるわけです。

昨日の、4番議員さんのように、道路の——大きな道路にしてるのは、のり面をコンクリート舗装するっっちゃうものも、1つの施策だと思います。しかし、大半のものが市道やら山間地——農道が市道に移ったものとか、水路等にあるような、たくさん、そういうふうなところばかりですので、その点の草刈り作業っっちゃうものを農地の受益者でなく、耕作者でなく、それをどうにかして、こう、草払いの管理っっちゃうものはやるごたあごとできんかにゃーと、ごっとい思うわけですけど、その点、何か考えられませんかでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

農地の維持管理につきましては、基本的には個人の所有ですので、使えるところにつきましては中山間地域の直接支払制度、あるいは共同でのですね、「農地・水」の交付金等を活用してお願いしたいというふうに考えております。（「それはおかしかばい。道路は、のりじりは、上んもんの持ちもんさい」と呼ぶ者あり）（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員（発言する者あり）

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、今の——ま、ちょっと外野席からも応援団が出てますように、（笑い声）道路ののり面とか水路等を考えますと、それは、もう、我々農家の自主的作業っっちゃうことで、耕作を——農業をよくするために、虫のすみかをなくすため、今より、ウンカ等を考えますと、風通しをよくするためにはどうしても、その面を払わなくてはならないっっちゃうものが、そ

れをほおっておきましたら、そこからその先は、今度は、ウンカのすみかになって、こう、百姓の言葉にすると、「爆弾が落ちた」というような形で、虫のすみかになるわけです。そしてどうしても、払わなくちゃならん、こう地域でも、公役でしとるとき、ここは県道やけん、市道やけん、まあ、払わじよかたいの、ちゅうて言われますけど、やっぱり結局、払わんばいかんちゅうような形で、払うてるわけです。

それらに対して、今——社会労務士ですかね。そういうようなところとのメンバーと話しますと、今、雇用対策というのは、大事な——雇用っちゅう面を——雇用対策というものを大事に考えられております。ぜひその点からでも、考えていって、草刈り作業等から、農業者の手を煩わさわらんでも、農道やら、いろんなその点を、草刈りができて、きれいな環境の中で農業ができるように環境整備っちゅうものの、対策っちゅうものをぜひ考えてもらいたいと思います。よろしくをお願いします。

次に元気な高齢者農業っちゅうことで、訴えたいと思います。

いつも、僕も、ここでは、じいちゃん、ばあちゃんの話をするわけです。農村では、年寄り、僕のおやじも85になるわけですけど、今でも草刈り機を使ったり、トラクターに乗ったりして頑張っております。

そんな中で、長野県に、ここに、「医療費が安い長野県に学べ」という農業新聞の記事を持っています。なぜ、長野県が、医療費が安いかということ进行分析された方がおられたわけです。もっとも、いろいろな意見がありまして、坂道が多いから、離婚率が少ないから、持ち家率が高いからなど、たくさんの項目の中で、一番有力なる理由は、高齢者の就業率が1位であった。すなわち、高齢者が働けるのは、農村では、百姓です。

長野県では小さな農業が行われていた。山間のわずかな土地に、小さな畑や田んぼをつくり、その作物をJAを通じて売る。わずかでも収入があれば、生きがいにつながる。孫に何か買ってあげることができる。自分のお金で日帰り温泉に行くことができる。このように、元気な農業者っちゅうものは、死ぬまで現役です。ぜひ、こういうふうな農業者の生きがいとなるような農業施策。それも、大事だと思っています。

そこで、元気な高齢者農業といえば、農産物の直売所だと思っています。市内は黒髪の里、若木の大楠の里、北方農産物直売所、武雄物産館内の愛情野菜など、いろんな、直売所があり、また、思い思いに、無人販売などが設置されています。これらの施設、地元の農業にとっては大事なものとなっています。

これをどう評価されるのかお尋ねしてみたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

農産物の直売所等につきましては、まあ、独自の販路を持たない小規模の農業者、あるいは

は、今出ました、高齢農業者にとりましては、ある程度の収入にもなりますし、また、生きがい創出の場にもなっているかと思っております。

そういうことで直売所等につきましては、重要な役割を担っていると認識しております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱりですね、例えば無人販売所とか、そういう販売所っていうのは場所が鍵になると思うんですよ。場所が。今、物産館——武雄温泉物産館ですよ。多くの方々がお越しになっていて、まあ農業やられてる方と、うまく連携をとられていて、それ非常に高く評価するんですけれども。

今度、これ私の考えで、また議会にも、十分、御相談をしないといけないんですけれども、今度、新しい庁舎が、この一帯、なるじゃないですか。そのときに、市の直営ではなくて、例えば、これこそ、あれですよ、官民で盛り上げるという前提で、そういう販売のスペースがあればいいなというふうに思ってるんです。そうすると、ここは物すごく、やっぱり場所の力が強いので、そういったこともぜひね、考えて。

でも、最終的に決めるのは、これはもう、議会が決めていただくということになりますので、そういった案も議会に対して出していきたいなというふうに思っています。いずれにしても、場所はあって、——これ、なにもね、あれなんですよ、民業圧迫じゃなくてね、今やられてるところ組んで、場所は市がスペースを、ね、一定提供させていただくと、いうことになれば、それこそ本当——来られた方がね、ついでに買っていくということにもなりますし、場合によっては、それを目的に、この庁舎のエリアに来ていただくことになると思いますので、いずれにいたしてましても、山口昌宏委員長が庁舎の特別委員長だと思いますので、議会の皆さん達と、よく相談していきたいと、このように思っております。山口議員さんはうんうんと言っていますので、まあ多分大丈夫だというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、そういうような形で、いろいろなところで直売ができれば、元気な高齢者じゃなく、高齢者ばかりではなく、若い担い手となるような、後継者も、農業者も、その販売っちゃうものが、所得の——農業所得の土台につながると思います。ぜひ、いろんな形で頑張ってもらうことを期待したいと思います。

今、その直売所の中で一番問題になっているのは、どうしても季節野菜っちゃうものになりますので、今の時期は少ない。もう少ししたら、白菜、大根、ほうれん草と、秋の野菜たちがお祭り騒ぎのように出るわけです。そんなときになれば、あんたんとはきれいかけんと

か言いよんさあうちはよかどんが、あんたんとば、いや、上に置いたけんが、下んとの売れんやったとか、いろんな問題が出てくるわけです。ぜひ、その点を考え——それを考えますと、簡易なるハウスの振興とか、もっと言えば、とれたた、どこさんないとして売れさっちゅうことで、福岡県内へのインショップ、どこかのお店に、中に、武雄の野菜村とか、何とかというような、看板を立てて、あふれたものを、それ目的のものは、福岡県内に出す、福岡商圏に出すというふうな方策っちゅうものもやったら、もっと生産者自体が、人の豊作を喜び合えるような農業っちゅうものが一番、大事だと思っています。

人が、あん人が、よんにゆ出しんさあけん、私は出されんやったっちゅう、ひがみが一番、農業を（笑い声）潰すと思います。（「そうそう」と呼ぶ者あり）その点を考えるときに、福岡商圏への販売とか、今、九州——県内では一番大きく販売している、あの三瀬のマツちゃんの店とか、あそこ見ますと、安い手数料で持って来しゃがすんないば売るばい、というような話を聞くわけです。そんなことも大事な農業振興だと思いますけど。その点、僕のアイデア、どう考えるかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

とってもいいアイデアだと思うんですね。やっぱり、これから求められるのは、守りよりも攻めだと思うんですよ。そういう意味でいうと、山口良広議員さんを——も先頭になって、我々もついていきたいなと思っています。

もう一つね、やっぱり、言えるのは、今武雄市は高齢人口が今、実は物すごく実は増えていて、例えばですね、人がいっぱいいるところで売ってというのは、僕は商売の原則だと思うんですね。そういう意味で言うと、武雄市図書館、あれ一番多いときは1日、7,200人お越しになるんですね。で、平日の少ないときでも1,800人お越しになるんですよ。だから図書館の中で野菜を売るというのは、多分不可能だと思いますので、だから、図書館の外にマルシェみたいに、できないかなと思ひましてね。それはぜひ、企画をしていきたいと思うんです。

秋になると収穫の季節にもなりますし、武内はおいしいアスパラもありますしね、あれ本当においしいんですよ。だれか1人のけぞってる方もいらっしゃるんですけども、そういう朝採りの野菜をマルシェで出すということもあるんじゃないかなと思ってますので。これは、指定管理者先のCCCとよく調整をして、できれば物産まつりのときにね、今、文化会館のスペースで今やろうというように検討していますけれども、その一角として、図書館の前のところでも試験的にね、できて、そこで、外で、その野菜を使った料理もね、食べれるように、これは働きかけていきたいなというふうに思っております。

それと、もう一つがですね、通販です。例えば、大刀洗町。福岡県の大刀洗町は、野菜の

定期便が物すごく好評なんです。これは「FB良品」改め、「大刀洗 s g」なんですけれども、ぜひね、私どもの、「武雄 s g」のシステムを使っただいて、農業経営者の方々はそこで通販でこう、出していくと、いうことも求められ——ぜひ求めたいなというふうに思っています。

だから、今あるものを活用して、そういう資源の掘り起こしと、沢山の方々がお越しになるところで、我々は、本当に農家の皆さん達が一生懸命つくってくださったものをね、誠心誠意売っていくと、いうことが私たちにとって、必要なのではないかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、今、いいアイデアっちゅうものが——さすが市長にやと思うどんで、（笑い声）話が出たわけです。いろんな、そのことも、うまいとこ使い合わせながら、先ほど言いましたように、耕作に「あんたんだ、きれいだったね、できてよかったね」って、先ほど言いましたキュウリのように、「あんたんとも、あんたも、借金はしたどんよかったねえ」って、「お互い頑張ろうね」と言われるような、農業者っちゅうものが、今からのエネルギーだと思えますので、ぜひ、そういう施策をお互いに農業団体、いろんな団体と、手をつなぎ合いながら、また販売をしている組織等も組み合いながら、できるようなことをやってもらいたいと思います。ぜひ、その中心に、市の農林課なり、農協の営農センターあたりと手を取り合いながら、頑張ってもらいたいと思います。よろしくお願いします。

次に山の問題です。山村地域、私は以前、山つき農村地帯と言ったと思います。今、山が荒れています。もとは、山といえば、イノシシ対策があったわけです。

この間、何ですかね、農業の、そういうふうな環境なんかの賞も、いのしし課は貰ったように、イノシシ対策に対して、武雄市は一生懸命しているわけです。そんな中で今、私の知る範囲内の朝日地区を見ますと、中野、黒尾、繁昌、川上と山つきの地域がイノシシのメッシュで山を覆っているわけです。確かにその効果は出まして、今までも、ないときには、あそこん田んなか、もうイノシシでやられるものっちゅうことが大前提での米づくりが行われていた地域もあったわけです。それがメッシュ対策によって、だいぶ減っております。「これでよかったにゃー」っちゅうたら、「よか、減ったねえ」っちゅうて話しよったら、反対に「いやー、イノシシはよんにゆとれようよ」て言うて、やっぱ飢えたるイノシシちゅうものが、痩せたイノシシのちきつとは、やっぱりメッシュをしてない地域に集中して集まるような格好になってその地域あたりでどんどんとれているんじゃないかと。それと同時にイノシシパトロールの皆さんの腕が上がったちゅうものも大事だと思います。その点は感謝したいと思います。そんな中で私は、この山のイノシシ対策も大事だと思います。それとともにど

うしたら、この山の荒れ放題になるのを減らすことができないのか。

私も建設委員長として、松浦川の河川対策ちゅうことで、会議をやっていくわけですけど、そんな中で、いつも唐津の市議員さんは、海に流れる流倒木あたりをどがらないとんしてくれちゅうことが、ごっとい出るわけです。そんなときに、反対に私たちから言えば、山の荒れとうけんが、流木が流れるとたいのて言いたかわけです。この山が荒れないように対策を。これが大事だと思っているわけです。

そんな中で、地元の区長さんから会議の招集がありまして、森林・山村多面的機能発揮対策ちゅうことで、国からの交付金事業で地域活動をすれば、森林の保全活動等をやれば、交付金が出るよ、ちゅうふうな対策を聞いたわけです。なかなか難しいような内容でしたので、結局、取り組むことが私の地域ではできませんでした。この、森林山村多面的機能発揮対策というものは、どういうもので、今、市内ではどういうところが取り組まれて、どういうものがやられているのか、実例あたりあったら、御紹介お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

先ほどの事業ですけれども、正式には森林・山林多面的機能発揮対策推進交付金事業（笑い声）と、もう大変長い事業名で、これ一口で言いますと、農地・水の里山版というような意味合いの事業でございます。

これにつきましてははですね、実際、事業自体は構成員が3名以上で活動組織を立ち上げていただいて、0.1ha、1反ですね。1反以上の里山の、保全管理、あとは資源の利用等をするための計画書を策定して、その作業を実施する、その作業に応じて助成を受けられるという制度でありまして、今この分につきましては、うちのほうから各区長さんあてにですね、今まで2回ほど中身、事業内容のお知らせをして、問い合わせ等あった行政区には、出向いて説明を行ったり、現在しておりまして、これまでに市内で3カ所の団体から申し込みがあって、もう保全活動の計画をされております。

そういうことで、これについてはことしからの3年ということで、ことし、今から始める事業ですので、これから3年間取り組んでいきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

これは、3年間と期限つきちゅうふうな形ですけど、それならば、今から、来年うちもかたろうちゅうことは、できるわけですかね。

それと、もらってありました資料を見ますと、一つ一つの項目は、金額は1haで15万とか、30万とか。あ、かんくりゃあないば大変にやあとと言うて思いよったわけですけど。最後

に総額を見ますと、総額で500万円以内っていうような数字も出ているわけです。そうなれば本気で、やっぱり地域の山村を守るちゅうものには、大事な事業じゃないかと思っています。

その点、まあ、総額のことか。また来年、この事業にかたることできるのか。その点をお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

この事業につきましては、先ほど申し上げましたとおり、区長さんを通じて2回ほど、数カ所の説明も行きまして、興味があられる区長さんはお尋ねに來られました。

そういうところで、今度から3年間始めますけれども、今週の13日にもう締め切りになっております。あと、中途の新規採用っていうのは、3年間認められないというふうな交付金事業になっておりますので、御理解をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ちょっと、もう13日が締め切りで、あとはだめばいて言わらんない、ちょっときつかにゃあと思うわけですけど。ま、その点は今からいろんな事業ちゅうものが出てくると思います。ぜひ、それと考えて、国土強靱化対策ちゅうことで、公費投入で10—15兆が3、4年でも、出るちゅうふうな大規模なる国の事業とも考えられておりますので、その点も含めて、山村を守るような対策ちゅうものを、推し進めてもらいたいと思います。それが、最終的には山を守る。そして山村地——山間地に住んでいる、農家の山林労働者、労務者としての所得向上につながると思いますので、ぜひ、進めてもらいたいと思います。

太良町の仲間等の話を聞きますと、太良では、森林組合あたりが中心になって、森林の保全作業ちゅうものを、いろんな交付金事業等を使いまして、やって、ミカン農家等での所得のプラスアルファちゅうものが、そういうふうな山林作業の中の労務でできて、助かっとうばいちゅう話も聞くわけです。

その点も考えられて、ぜひ、こういう事業を推し進められまして、武雄の山がきれいになり、今、全国で土石流等の被害がいろんなところ出ます。その一番の原因ちゅうものは、大きな木や干ばつ、草刈り等はしなくて、山が荒れているからだと思っています。そのようなものを少なくするちゅうことも、市政の大事な方策だと思いますので、よろしく御検討され詰められてもらいたいと思います。

次に移りたいと思いますけど、ちょっとお待ちください。

次に移ります。杵藤クリーンセンター跡地についてお尋ねです。今、伊万里のほうに、佐

賀西部——公式名称忘れましたが——の、ちゅうことで、クリーンセンターが広域的に行われています。この進捗状況で、いつごろには稼働されるのか、まず、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

現在なんですけども、ちょっと私、これ杵藤——の広域圏の管理者でもありますので、その立場も加味してちょっと答弁したいんですけども。現在、その跡地利用については検討部会が設置をされていて、これについて、今、いろんな課題とか問題点をその検討部会の中で整理をされています。これを設置したのは、平成23年の設置——（発言する者あり）

まあ、そういうことですね。はい。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

もしよかったら、何年度ぐらいに伊万里の地区の、あれが、始まるよっちゅうことが、わかりますか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

佐賀県西部域の施設の稼働につきましては、平成27年の10月ごろを予定をしております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

27年の10月——それからいつときは稼働があつて問題がなかったら、徐々に……（発言する者あり）こういった、杵藤クリーンセンターのほうは終わっていくと思います。

そんな中でぜひ、あの施設というものが、地域では迷惑施設ちゅうことで、あつたわけです。跡地の跡の埋め立て処分——埋め立て場の管理等を大事にされまして。そして、あの施設、地域が、すばらしい憩いの場、どうなるのかわかりませんが、そういうような形で活用されて、市民の憩いの場、杵藤地区の憩いの場になるような施設に——充実して——ものが、地域の意見を聞きながらできることを念願して、私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、5番山口良広議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため、10分程度休憩をいたします。